

# 学習課題の設定の仕方とまとめ

学習指導要領の各教科等の目標や内容（指導事項）に基づいて、単元（題材）や本時の目標、指導すべき内容を明確にするとともに、観点別の評価規準を位置付け、その実現を目指した学習活動を設定することが、基礎・基本の定着を図ることにつながります。

## 手順1

学習指導要領の各教科等の目標や内容（指導事項）に基づき、単元（題材）の目標や各時間の目標を押さえる。

本資料P2の参考資料  
【学習指導要領の内容】  
参照

## 手順2

単元（題材）の目標を踏まえ、観点別に単元（題材）の評価規準を作成し、指導計画に位置付ける。

本資料P2の参考資料  
【評価規準に盛り込むべき事項】  
参照

## 手順3

手順1・2を踏まえ、主な学習活動を工夫するとともに、学習活動のまとめごとに具体的評価規準を設定し、児童生徒が基礎・基本を身に付けた姿を明らかにする。

本資料P2の参考資料  
【評価規準の設定例】  
参照

## 手順4

本時の目標や児童生徒の実態、展開における学習活動、具体的評価規準（児童生徒に基礎・基本が身に付いた姿）などを踏まえ、本時の学習課題を設定する。

本時のまとめのポイント  
本時のまとめは、本時の学習課題に対応する内容になっていることが大切です。

小学校第5学年 算数科学習

- 1 単元名 「ともなって変わる量」
- 2 単元について（※省略）
- 3 単元の目標

表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を考察し、簡単な表を知ったり、数量の関係を表す式についての理解を深め、簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目したりすることができる。

### 4 単元の評価規準

評価規準			
算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
○比例、数量の対応や変わり方などの性質や関係などに着目して、考察処理したり、論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気付いている。	○表に表したり、特徴を調べたりすることなどを通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりしている。	○目的に応じて資料を整理し、表やグラフを用いて表したり、簡単な式で表されている関係について、数量の関係を調べたりするなどの技能を身に付けている。	○比例の関係について理解している。

単元（題材）の評価規準は、国立教育政策研究所の参考資料（P2）の【評価規準に盛り込むべき事項】を参考にし、単元（題材）を終えた際に、児童生徒が基礎・基本を身に付けた具体的な姿として設定します。

### 5 指導計画（6時間）

時間	○目標 ・主な学習活動	評価規準			
		算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
（※1～2時間目省略）					
3	○伴って変わる二つの数量の関係を調べ、表からきまりを見だし、問題を解くことができる。 ・問題に出会い、解決への見通し・・・ ・自分の方法で表を用いて・・・			○二つの数量の関係について、表に数量を当てはめて調べていく中で、一方が、2倍、3倍、4倍、...になれば、他方も2倍、...	

具体的評価規準は、国立教育政策研究所の参考資料（P2）の【評価規準の設定例】を参考にし、学習活動を終えた際に、児童生徒が基礎・基本を身に付けた具体的な姿として設定します。

### 6 本時の学習

- (1) 本時の目標  
伴って変わる二つの数量の関係を調べ、表からきまりを見だし、問題を解くことができる。
- (2) 本時の展開（3/6）

過程	○主な学習活動	◇教師の主な働きかけ	■評価規準 □評価方法 ▲努力を要すると判断される児童への手立て												
導入	○直方体の縦、横の長さを変えず、高さが1cmや2cmなどが増えた場合の体積を考える問題と出会う。 「直方体のたて、横の長さを変えないで、1cm、2cm、...となるような箱を積んでいきます。体積が150cm <sup>3</sup> のときの高さを調べましょう。」 ○本時の学習課題を設定し、解決への見通しをもつ。	◇縦3cm、横5cm、高さ1cmの直方体を見せて、この直方体を積んでいく場面であることを捉えさせる。 <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr><td>高さ</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> <tr><td>体積</td><td>15</td><td>30</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> ◇既習事項を確認し、解決への見通しをもたせる。	高さ	1	2	3	4	5	体積	15	30				
高さ	1	2	3	4	5										
体積	15	30													
展開	○児童一人一人が自分の方法で表を用いて、答えを求める。 ○全体場で、答えの求め方を発表し、それぞれの求め方を確認する。 ○より簡単な答えの求め方について話し合う。 ○本時の学習をまとめる。	◇答えだけでなく、考えの説明（言葉、数、式、表など）なども書かせる。 ◇数名の考えを発表させ、それらについて、学級の児童全員に理解させる。 ◇きまりを見付けることの高さについて確認する。 ◇本時の学習のまとめを理解させる。	■二つの数量の関係について、表に当てはめて調べていく中で、一方が、2倍、3倍、4倍、...になれば、他方も2倍、3倍、4倍、...になるなど、二つの数量の対応や変わり方の特徴を見いだしている。 【数学的な考え方】 □ノート、発言 ▲既習の体積の求め方を想起できるようにノートを確認させる。												
終末	○類題について、より簡単な方法で解く方法を考える。	◇きまりを基に問題解決することが、児童に確実に身に付いているかどうかを類題で確認する。	■基礎・基本の定着を確認するため、本時の目標等を踏まえた類題を使用することが大切です。												

学習課題：高さが変わると体積はどのように変わるのか、表からきまりを見つけ、答えの求め方を考えよう

**児童生徒に求められる「学力」とは**

「学校教育法」第三十条第二項で、次のように定められています。  
前項においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、①基礎的・基本的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な②思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、③主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

**「基礎・基本」とは**

学習指導要領の各教科等の目標や内容（指導事項）として定められたものを全体を一言で表現したものです。（学習指導要領には上記①～③の資質や能力などが教科の特性に応じて示されています）

**P1、手順1との関連**

単元（題材）の目標や各時間の目標は、学習指導要領の目標や内容（指導事項）に基づいて設定します。

**P1、手順2との関連**

単元（題材）の評価規準は、【評価規準に盛り込むべき事項】の網掛けの部分（注）を参考にして、指導計画に位置付けます。

**P1、手順3との関連**

指導計画における学習活動のまとめりごとの具体的評価規準は、【評価規準の設定例】を参考にして、単元全体を通して、全て位置付くようにし、各時間において児童生徒に基礎・基本が身に付いた姿として押さえます。網掛けの部分は、本時の具体的評価規準です。

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 算数】より  
文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター

**参考資料**

V 第5学年

3 学習指導要領の内容、内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例  
(4)「D 数量関係」

【学習指導要領の内容】

- (1) 表を用いて、伴って変わる二つの数量の関係を考察できるようにする。  
ア 簡単な場合について、比例の関係があることを知ること。
  - (2) 数量の関係を表す式についての理解を深め、簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目できるようにする。  
(※(3)～(4)は省略)
- [算数的活動]
- (1) 内容の（※省略）「D数量関係」に示す事項については、例えば、次のような算数的活動を通して指導するものとする。  
オ 目的に応じて表やグラフを選び、活用する活動  
[用語・記号] 比例 %

【「D 数量関係」の評価規準に盛り込むべき事項】

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
比例、数量の対応や変わり方、百分率などの性質や関係などに着目して考察処理したり、論理的に考えたりすることの楽しさやよさに気づき、進んで生活や学習に活用しようとしている。	表、円グラフや帯グラフに表したり、特徴を調べたりすることなどを通して、日常の事象について論理的に考え表現したり、そのことを基に発展的、統合的に考えたりしている。	百分率を用いたり、目的に応じて資料を分類整理し、円グラフ、帯グラフを用いて表したり、簡単な式で表されている関係について、数量の関係を調べたりするなどの技能を身に付けている。	比例の関係、百分率、円グラフや帯グラフについて理解している。

【「D 数量関係」の評価規準の設定例】

算数への 関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての 技能	数量や図形についての 知識・理解
伴って変わる二つの数量の変わり方に関心をもち、特徴を見いだそうとしている。	二つの数量の関係について、表に数量を当てはめて調べていく中で、一方が2倍、3倍、4倍、…になれば、他方も2倍、3倍、4倍、…になるなど、二つの数量の対応や変わり方の特徴を見いだしている。	乗法の場面について、「一方が2倍、3倍、4倍、…になれば、他方も2倍、3倍、4倍、…になる」などのように言葉を用いて表すことができる。	簡単な場合について、比例の関係があることを知っている。
式を用いて、二つの数量の対応や変わり方を調べようとしている。	簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方の調べ方を考えている。	簡単な式で表されている関係について、二つの数量の対応や変わり方に着目できる。	数量の関係を簡潔に一般的に表すという式の役割について理解している。

**児童生徒の意欲を高める学習課題を設定するには？**

授業の導入段階は、学習するねらいや方向付けを確認し、動機付けをする段階で、設定した学習課題によって、授業の方向性が決まり終末段階のまとめも変わってきます。  
したがって、次の視点に留意して学習課題を設定する必要があります。

**【視点1】児童生徒の実態を的確に把握する。**

基礎・基本の確実な定着や個に応じた指導の充実を図るためには、次のことに留意し、他の教師や保護者等との連携により、多面的な児童生徒理解を図ることが大切です。

**<児童生徒の実態把握のポイント>**

- ①生活経験や特性など（友人関係や遊びの状況など学校の様子、これまでの生活経験、責任感や創意工夫などの行動の特性等）
- ②観点別学習状況や学習習慣など（評価規準で評価してきた学習状況や学習習慣等）

**【視点2】解決する必要感のある学習課題を設定する。**

児童生徒が課題解決に意欲的に取り組むためには、解決する必要感をもつことができ、出会った問題場面から学習課題が設定され、課題意識を高めることが必要です。

**<望ましい学習課題の条件>**

- ①学習する必要性・必然性があり、学習したよさを感得できるもの
- ②実態に即し、身近に存在するなどの現実性があるもの
- ③満足感、成功感等を体験でき、興味・関心や学習意欲を喚起し、持続できるもの
- ④驚き、不思議さ、新鮮さがあり、多少の困難性があるもの
- ⑤多様な考え方ができ、発展性があるものなど